

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23221002	研究期間	平成23年度～平成27年度
研究課題名	完新世における東アジア水循環変動とグローバルモンスーン	研究代表者 (所属・職)	多田 隆治（東京大学・大学院理学系研究科・教授）

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる	
○	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、揚子江、東シナ海、水月湖（と日本海）の3つの地域を調査対象とした各サブプログラムからなる。このうち平成23年7～8月に行われた水月湖の堆積物の解析は成果につながる可能性が高く、過去の偏西風ジェット的位置の動きを把握できることは評価できる。また東シナ海におけるコア分析などでも、新たな定量的評価の手法を開発するなどの成果が認められる。

一方で、揚子江のサブプログラムでは、河口付近の掘削が遅れ、また洞庭湖の掘削では大規模な採砂作業による環境劣化があることから、計画を揚子江河口での掘削に変更するとしており、当初の計画に比べて遅れが生じていることは否めない。また国際的な学術成果の発信についても一層の努力が必要である。